

令和7年2月26日発行
山鹿市人権のまちづくり推進協議会
(事務局 山鹿市人権啓発課) TEL 0968-43-1199

くらしとじんけん

一人一人が、心やさしく、互いに助け合い、人権を大切にする「人権のまち」をめざしましょう

山鹿市では、今年度、人権啓発活動の一環として「各種講演会」活動に取り組んできました。命の大切さ、拉致問題、子どもの人権、外国から来た人たちの人権、性的マイノリティの人権、災害と人権、男女共同参画…。様々な人権課題に対して市民の皆さんとともに一緒に見つめ考えてきました。そこで本集では、本年度講演をいただいた方々からのメッセージを、より多くの市民の皆さんにお伝えします。たくさんのお話の中のほんの少しではありますが、当事者の皆さんお一人お一人の思いを受け止めていただければと思います。

拉致問題

「ただいま」を聞きたい



拉致被害者
増元るみさんの姉
平野 フミ子さん

拉致被害者とその家族には一刻の猶予もありません。いまだに帰国ができていない政府認定の12名の拉致被害者の家族、絶対連れて帰って欲しいと思っています。どうか、皆さんの力で政府を動かしてほしい。お願いします。
北朝鮮が憎い、そして、なかなか助けられない政府に対して込み上げる思いで胸が張り裂けそうです。でも、妹に届けたい。日本の人たちは拉致された方々を忘れてはいけませんよ。安心して帰ってきてね。あなたの「ただいま」を聞きたい。そして、「お帰り」と大きな声で言いたいです。

災害と人権

「防災」は「防災」 みんなでつくる避難所が大切



防災・安心プランナー
柳原 志保さん

あのときやっておけばよかったと後悔しない行動が大切です。熊本地震では、災害関連死の数が直接死の4倍ありました。また、障がい者の死者数も2倍となっていました。だからこそ、みんなで役割を分担する避難所づくりが大切です。

いじめ問題・子どもの人権

生きてさえいれば前に進める



坂本 潤一さん

いじめによって自ら命を絶つことがないような社会になり、私たちのような思いをする人が二度と現れないように心から願います。亡くなった命は元に戻りません。悲しみは癒えることはありません。息子が命と引き換えに伝えたかったことは、世の中から息子のような犠牲者が出ないようにすることだと思えます。

子ども食堂・子どもの人権

地域の子どもたちを 地域で見守り育てていく



山鹿子ども食堂 百華
代表 豊田 真紀さん

子どもたちが、明日も頑張ろうという気持ちになれる場所を作りたいというのが活動のきっかけです。山鹿子ども食堂「百華」では、家族の負担を減らそうと家族で利用されたり、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんと一緒に来られたり、子どもたちが友達と一緒にご飯を食べたり、様々な方に活用いただいています。皆さんの支援に支えられながら、これからも子どもたちの幸せと日々の生活に不安を抱えている人たちが前を向いていけるよう活動を続けていきます。

拉致問題

「帰ってきたよ」って言いたいです



拉致被害者
松木 薫さんの姉
齊藤 文代さん

母が布団の中で泣いているのを見て、一緒に頑張っていこうと言い続けたけれど、帰ってくるという願いが叶わず亡くなってしまいました。母は本当に辛かったと思います。
こんなことは二度とあってはいけなくと思っています。ぜひ、後押ししてください、私も頑張ります。何とかして皆さんに「帰ってきたよ」って言いたいです。それを皆さんが「よかったね」と言ってくださるその一言を思いながら、私は頑張ります。

性的指向・性自認に関する人権

すでに共に生きている



セクシャルマイノリティも住みやすい
熊本を目指す活動グループ「くまにじ」のこうぞうさん(左)とゆうたさん

人口の3~8%が性的マイノリティといわれ、これは左利きの人と同じくらいです。それなのに今までの性的マイノリティの人に接したことがないというのは不自然なこと。カミングアウトしていない人が圧倒的に多く、信頼している人にしか伝えません。
もしカミングアウトされたら、よく聴いて、知らせる範囲を確認してください。アウトティングは命にかかわる問題です。

外国人の人権

日本語クラブを支えて



NPO法人 外国から来た子ども
支援ネットくまもと
山鹿地区サポートボランティア
代表 前田 恵美子さん

外国ルーツの子どもたちは自分の意志で日本に来たものではありません。留学生とは違います。交通事故や病気のときなど専門的な言葉が多く、言葉や文化の違いが壁となって困っている人たちがいます。
だから、やさしい日本語でゆっくり話してほしい。話すときは、はっきりと、さいごまで、みじかく言う、「はさみ」を心がけましょう。

インターネットによる人権侵害

「リツイート・シェア」は「自分自身の発信」、 「いいね」は「投稿への同意」



モバイル・ネットワーク研究所
代表 松川 由美さん

SNS上で児童ポルノ投稿をリツイート(引用して再投稿)した人が書類送検されたり、悪口投稿に「いいね」した人が損害賠償責任を問われたり。指先一つの行為で刑事罰や民事訴訟の対象になることがあります。トラブルに巻き込まれないためには、*ネットリテラシーと感情のコントロール、情報に流されない「自分軸」が必要です。
*ネットリテラシー…インターネットの情報や事象を正しく理解し、それを適切に判断、運用できる能力

人権フェスティバル

もっとゆったりと!

外国では定時に仕事を終わってそのあとは自分の時間、家族の時間を大切にします。だけど、日本では、夜の8時、9時、10時…、遅くまで残って仕事をしています。休みの日も仕事をしています。もっと、プライベートな時間を大切にしたい方いいと思います。

日本の学校は宿題があります。それもたくさんあります。外国では宿題はほとんどありません。ある国では州によって宿題を禁止しているところもあります。
日本の子どもたちはとてもいそがしい。家に帰ったあとも宿題で大変。宿題もそんなに出さずに、ゆったりとしたペースで、生活できたらいいと思います。



ALT (外国語指導助手) の3名

熊本県立大学 教授
石村 秀登さん

男女共同参画フォーラム

小さな輪から大きな輪へ

対話しやすい環境づくりと、誰の意見もウェルカムに聞く姿勢を持つ環境づくりが必要。対話によって新しい気づきがあり、古い情報をアップデートできる。
女性の管理職・役員登用は、子育てを社会が担うことができればもっと広がる。周りのサポートが必要。個々の能力やスキル、特性などを生かして役割を分担する考え方が良い。
行政や地域の中で男女共同参画が進むよう今よりもう一步ポジティブアクションを起こしてもらいたい。そのためには、目標と計画を立てて、身近な場で前例を作っていく必要がある。

無人トラクターなどの機械を導入することで、女性も農業に参入しやすくなる。機械が発達して軽量化すれば、作業の効率が良くなるだろう。育児をしながら農業をすることが可能になるときがくる。
一人一人が意識を持ち、家庭や職場、地域へと少しずつ、小さい範囲から広げて行くことが大切である。



JA鹿本 山鹿市男女共同 株式会社Lib Work 株式会社ヒトコト社 NPO法人ファザーリング
青年部山鹿地区部長 参画審議会 会長 代表取締役社長 代表取締役 ジャパン九州 代表理事
吉田 友洋さん 坂口 里美さん 瀬口 力さん 村上 美香さん 森島 孝さん

地方創生・男女共同参画社会

地方創生は女性がカギ!



熊本県立大学 教授
澤田 道夫さん

元総務大臣の増田寛也氏が2014年に報告したレポートの中で、全国896の市区町村が「*消滅可能性都市」と指摘しました。この危機に対応するために始まったのが地方創生であり、若年女性を地域にとどめることが消滅可能性を防ぐカギとなっています。
しかし、日本は指導的地位や施策を反映させる場に女性が少なく、女性の視点や意見が十分に取り入れられていない現状にあります。
女性が働きやすい職場、住みやすい地域づくりを行うことで、男性にとっても働きやすい職場、住みやすい地域をつくることができ、人口減少に歯止めをかけることができます。
*消滅可能性都市…2010年から2040年の30年間で若年女性(20~39歳)が50%以上減少する自治体のこと。

避難所運営・男女共同参画社会

「だろう」ではなく「ですね」



熊本大学大学院 教授
竹内 裕希子さん

地震などの災害が発生したとき、多くの人が避難所へ避難します。しかし、避難所にはたくさんの課題が残っています。熊本地震で避難所運営を行った組織へのヒアリングでは「最初に通路などの間取りを作らなかったため後で確保するのが大変だった」「役割を示す腕章が欲しかった」などの意見がありました。
災害が発生してから考えるのではなく、事前に話し合いをする場を設け、女性や障がいのある方などの多様な視点で避難経路の確認や避難所の配置・動線の確認など、学校・地域・行政が連携して取り組むことが重要です。
また、「なんとかなるだろう」ではなく、「ルールはこれですね」を意識して一人一人が普段の生活の中で防災を考えることが大切です。

男女共同参画で人口減少に歯止めをかける！

山鹿市の課題

山鹿市でも、年々人口減少が進んでいます。特に若い世代の転出が課題となっています。若い世代の転出が増えている原因の一つに「固定的性別役割分担意識」があります。

「男性は仕事、女性は家事育児」という根強い考え方、政策の策定や避難所運営などの意思決定の場に女性が少ないために女性の意見が反映されていない、周りの理解がないために男性の育児休業取得が進まないなど男女共同参画が進んでおらず、地元を離れる若い世代が増えています。

また、一旦転出した若い世代が山鹿に戻ってこないことも課題となっています。

固定的性別役割分担意識チェックリスト

「そう思う」ものに☑を入れてください。

- 男性は人前で泣くべきでない
- 女性は感情的になりやすい
- 保育士と聞いて女性を想像する
- 医者と聞いて男性を想像する
- リーダーには男性がふさわしい

1つでも当てはまったら気を付けよう！
無意識の思い込みで誰かを傷つけているかもしれません

こんな取り組みをしています！

家族の会話に防災を「親子防災講座」

令和6年12月8日(日)に食育防災アドバイザーの芹川 恵めぐみさんを講師に招き、山鹿消防署と共催で親子を対象とした防災講座を開催しました。

講座の前半は、避難所などで炊き出しを行うのは女性だけの仕事ではなく、性別・年齢に関係なく利用する全員で協力する必要があることや、災害発生後の家族の集合場所を決めておくことなどの「防災を普段の会話の中にも取り入れること」の重要性について、クイズや実験を行いながら考えました。

また、後半には、消防署職員から消防士の仕事についてお話を聞き、その後、消防署内と消防車両を見学しました。

参加者の声

- ・「防災」と構えるのではなく、身の回りのこと、身近なことだと感じることができました。
- ・防災について学べ、親子で改めて話し合えるきっかけになりました。
- ・防災とは「特別なもの」ではなく、普段から少しだけ「意識する」ことで高められることに驚きました。



働きやすい職場づくり宣言「よかボス企業」

熊本県では、子育て環境をはじめ誰もが働きやすい職場環境の整備などの取り組みを推進するため、県内企業や事業所の経営者、市町村長などボス自身が率先してワーク・ライフ・バランスの推進を宣言する「よかボス宣言」を行っています。

「よかボス」とは、自ら仕事と生活の充実に取り組むとともに、共に働く社員や職員、従業員等の仕事と生活の充実を応援するボス(企業の代表者等)のことです。

山鹿市も市長をはじめ、管理職の職員自らよかボス宣言を行うことで、職員の仕事と生活の両立を応援しながら男性の育児休業取得推進など職員が安心して働き続けられる職場づくりを進めています。

ボスの皆さん、誰もが働きやすい山鹿市を目指して、ぜひ「よかボス宣言」をしてみませんか。詳細は熊本県のホームページをご覧ください。

熊本県内のよかボス企業…1,053事業所
山鹿市内のよかボス企業…15事業所
(令和6年12月25日時点)

▶早田順一山鹿市長は令和3年度に宣言しました。



▲県ホームページ



▲宣言すると使える「よかボス企業」シンボルマーク。社員募集や企業説明に活用できます。

もっと知ってほしい! 「隣保館」のこと

皆さんは「隣保館」を利用したことはありますか？

山鹿市には「山鹿隣保館」「鹿本隣保館」「鹿央隣保館」の3つの隣保館があり、各館が特色ある事業を行っています。

山鹿隣保館 TEL 43-1133

山鹿隣保館、鹿本隣保館で日本語クラブを行っている「NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと」が、山鹿市合併20周年で教育振興の功績表彰を受けました。やまが日本語クラブで、ボランティアの方々と一緒に学習指導と相談を行っています。今回は、相談を紹介します。



▲受賞を喜ぶ日本語クラブの受講生と指導者の皆さん。

やまが日本語クラブ【相談】

- 対象 外国から転入した人
- 日時 第1・3・5土曜日
午前9時30分～11時30分
- 場所 山鹿隣保館(1階和室)
- 内容 生活相談や進路相談

※予約はいりません。お気軽にご来館ください。

鹿本隣保館 TEL 46-2325



人権問題についての情報発信や、啓発活動として、人権現地学習会を実施しています。毎年、県内外から約300人の来館があり、講師と連携し、学習会を実施しています。

学習会では差別の構造を学び、新たな差別を生まない、差別しない考えを学んでいます。

鹿央隣保館 TEL 36-3133

地域の中学校の先生を対象に現地学習会を実施しました。講師を務めた鹿央隣保館館長は子どもたちが安心して学校生活を過ごせるように、校長先生をはじめ、先生一人一人が日ごろの生活の中でも人権に関する意識を心がけることの大切さを伝えました。人権のまちづくりを進める行政と、子どもたちと関わる学校が連携し、人権教育を進めていきます。



令和6年度 米野岳中学校区現地学習会